

# 麦作情報 第1号

平成30年11月1日

J A む な か た  
北筑前普及指導センター

麦の播種時期になりました。播種前までに排水対策や土づくり、雑草対策を行いましょよう。31年産麦は、「基本技術の励行」を合言葉に、部会員全員で収量及び品質向上に取り組みましょよう。

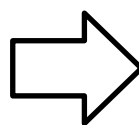
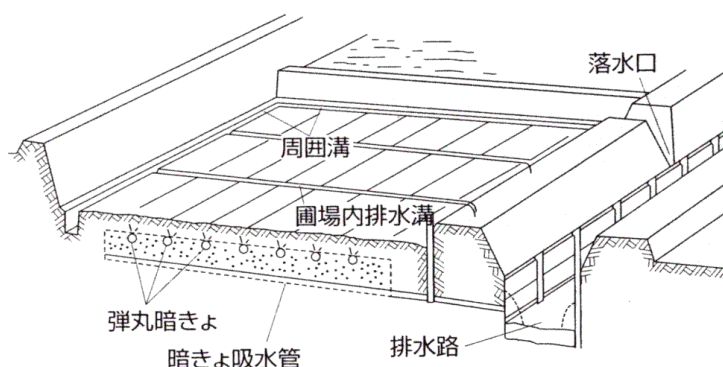
## 1 播種前の排水対策と土づくり

### (1) 排水対策（地表排水と地下排水の組み合わせ）

排水はその6割が地表排水によるものと言われています。以下の点に注意して排水対策を行いましょよう。

ア 地下排水は、本暗渠の施工が基本で、補助として弾丸暗渠や心土破碎（サブソイラ等）を施工。

イ 地表排水は、周囲溝（額縁排水）と、うね溝（圃場内排水溝）が基本。



溝をつないで落水口から排水させることが重要

### (2) 土壌の酸度矯正

麦は酸性土壌を嫌います。適正な土壌のpHは、6.0～7.0です。特に大麦はpH5.5以下で生育障害が発生します。pHが低い場合は、ミネラルGの散布と合わせ、炭酸苦土石灰、消石灰等の石灰質資材による酸度矯正を行ってください。

### (3) 有機物の施用

ア 稲わらは焼却せずに全量すき込みましょよう。

イ 堆肥は10a 当たり1～2t 施用ましょよう。

## 2 施肥（基肥）

いずれの麦類も基肥はベスト化成444を40kg/10a 施用ましょよう。

※大豆後作（大豆が良くできているほ場）の麦については、基肥は基準量より減らし、30kg/10a程度にましょよう。

### 3 播種 適期内に播種を終えるようにしましょう。

(1) 播種適期：小麦 11月20日～11月30日（晩播限界12/15）

大麦 11月25日～12月5日（晩播限界12/20）

大麦の早播きは側面裂皮による外観品質の低下と出穂期の低温による不稔粒の発生をまねく恐れがあるので、適期播種に努めましょう。

#### (2) 播種量（10a当たり）

品種名	11/15～20	11/20～25	11/25～30	12/1～10
ほうしゅん	—	5～6kg	6～7kg	8～10kg
チクゴイズミ	5～6kg		6～7kg	12/1～5 8～9kg

#### (3) 種子消毒：トリフミン水和剤0.5%粉衣(種子10kgに薬剤50g)

※小麦でシロトビムシ類による被害が予想されるほ場（大豆後作、低温多湿）は、トリフミン水和剤0.5%粉衣に加えて、アドマイヤー水和剤0.15%粉衣（種子10kgに薬剤15g）の2剤混用で消毒を行いましょう。

### 4 雑草防除（10a当たり）

除草剤名	薬量	散布液量	使用時期
クリアターン乳剤	500～700ml	70～100ℓ	播種直後（雑草発生前）
ボクサー	400～500ml	70～100ℓ	播種後～麦2葉期まで
リベレーターフロアブル	60～80ml	100ℓ	播種後～麦3葉期まで
ムギレンジャー乳剤	300～600ml	50～100ℓ	播種後～出芽前 （雑草発生前まで）

※除草剤散布の際、土壌が乾き過ぎていたり、土塊が大きい場合は、希釈水量を登録の範囲内で多くした方が効果が安定します。

※播種前雑草が多いほ場ではラウンドアップマックスロードまたはプリグロックSLを農薬使用基準に従って散布しましょう。

※散布直後に降雨が予想される場合は薬害を起こす恐れがあるので、降雨を避けて散布する。

※播種後の土塊が大きすぎると土壌表面に均一に散布することができないので効果が劣ることがある。

※ボクサーは、麦2葉期まで使用できる登録となっていますが、麦の播種後早めに散布した方が効果は高くなります。

この麦作情報はJAむなかたホームページからもご覧いただけます

[http://www.ja-munakata.or.jp/dt\\_meeting.cgi](http://www.ja-munakata.or.jp/dt_meeting.cgi)